

平成27年度 第2回奈良県がん対策推進協議会議事要旨

日 時：平成28年3月23日（水） 午後1時30分～午後3時30分

場 所：奈良県文化会館 地下1階多目的室

出席者：今川 敦史、上田 晴三、浦嶋 偉晃、川本 たか子、小出 久美子、
駒井 壽美、四宮 敏章、西川 ユカ、長谷川 正俊（会長）、濱田 弘子、
平井 茂、吉川 高志、辻井 啓之（オブザーバー）

50音順敬称略

概 要：

（1）部会の活動報告【資料1】

- ・各部会の平成27年度の活動と平成28年度の計画について、事務局より報告。

（2）事業実績及び計画について【資料2-1 2-2】

- ・保健予防課が所管する平成27年度事業とがん関連事業の平成28年度計画について、事務局より報告。

<主な意見等>

- 新規事業の在宅緩和ケア研修会の具体的内容についてどうか。
→今年度に引き続き、次年度も同じ内容で開催する予定。
- 訪問看護推進事業で、在宅医療に関する取組は何かあるか。
→訪問看護ステーション協議会で委託を受け、次年度はエルネックを実施する予定。
- ヒトパピローマ感染症予防接種後相談事業について。
→予算は新規となっているが、引き続き相談窓口を開設する。
- 子宮頸がんワクチンの研修会は、次年度も実施されるか。
→教育委員会の管轄になる。
- 禁煙支援薬局の普及啓発について。
→研修会で禁煙支援のテストを受けてもらうことになる。
- 乳がん検診マンモグラフィー単独か視触診と併用する市町村の状況について。
→マンモグラフィーは最低限実施し、視触診をするかどうかは市町村の判断による。
視触診のみはだめ。
- がん患者就労支援ネットワーク事業について、企業関係者への研修であれば、会社の人事担当者、事業主への啓発が重要ではないか。
→来年度から国の事業で、ハローワークと県拠点病院の事業が始まる。また、労働局で企業向けのセミナーも実施される予定であり、関係者と連携して実施していく。

（3）中間評価について

- ・報告書に基づき、事務局から平成26年度からのプロセスや進捗状況点検シートの

見方、がんサミット等について説明。

《会長より総括》

- ・第2期計画より3年がたち、中間の評価として良好な成果が出ている。
- ・病院での体制整備や人員配置は比較的順調である。
- ・最終目標は、がんで死亡する人が減る、がんになっても安心して暮らせる、がんは怖くない等、県民の方が実感できること。
- ・成果が現れるまでは、数年かかることもあり、目に見えてこないが、将来に期待するところ。
- ・中間評価で良い結果が出ているところも満足せず、問題点を見直してみて、できればPDCAサイクルをやってみる。残った2年間で、さらに第3期計画に向けて取り組んでいけたら良い。

<主な意見>

- 口腔ケアについては、例えば高田市立病院のように歯科医師会と連携できているところもあるが、県下病院の1割程度しか口腔外科がない。県の事業を受けて、歯科衛生士に研修を実施しスキルを向上、チラシを作成し、サロン等で配布していただけるよう、啓発に努めたい。
- 毎年10月に、各基準監督所が事業所を対象に研修会を開催されているようなので、そういう機会に、がんの啓発をすれば良いのではないか。
- 医師側と患者側が納得するインフォームドコンセントが必要である。
- 患者満足度調査では「普通」と回答があった割合も結構多いと思う。治療においてその満足度が上がるように全ての医療機関に努力してほしい。
- 緩和ケアについては、まだ世間では末期になったときにかかるものだと思われる。緩和ケアのネーミングで受けるのを躊躇してしまう。さらに推進が必要。
- 地域連携については、大学病院から往診に行くことも、真剣に議論しているところ。現状では地域の診療所と連携している。

(事務局)

中間評価をまとめ、これをもとに、今後の2期計画の取組や部会等の推進体制、そして3期計画の策定に向けて対策を進めて参りたい。

以上 15時30分 終了